

「学校・家庭における防災・減災教育の充実に向けて」

1 講師を招いての「親子防災教室」の実施

平成24年9月2日（日）に以下の内容で「親子防災教室」を開催した。

- ・本校の防災計画の見直し点を具体的に提案し、理解と周知徹底を図ること
- ・講師による専門的な見地からの防災・減災に関する講話をいただき、地震・津波に関する基本的な知識と備えについて親子で学び合うこと
- ・「親子徒歩下校」を実施し、登下校途中で地震や津波に遭遇した場合、具体的にどこへどのように避難すればよいか「現場学習（現場訓練）」を行い、自己の安全確保に係る基礎的な知識・技能・態度を身に付けること

(1)本校の防災計画の見直しのポイント

- ① 東日本大震災の津波被害の経験から、「安全な海拔基準の目安を30mとする」を知らせる。
- ② 国土交通省の資料により、学区内要所の海拔高度について確認する。
～只越，堂角，小田，載鉤，岩井沢，館，荒屋前，港，大沢，釜石下，出山各地区の安全な場所と危険な場所の確認～
- ③ 安全避難場所について確認する。～津波警報が発令された時の避難先～

(2)防災・減災に関する講話と親子での話し合い

- ・保田真理先生

東北大学大学院工学研究科附属災害制御センター研究支援推進員

- ・坪井進先生（防災士，只越地区）

本校学校評議員，防災士みやぎメンバー

- ① 地震・津波のメカニズム（津波のスピード，津波の最高到達点）
- ② 東日本大震災から（地震と津波の現状と避難の仕方）
- ③ 防災クイズ・自助と共助の考え方



保田真理先生の講話



安全な避難路を確認する親子

(3) 「親子徒歩下校」と「登下校途中の避難訓練（安全避難場所の確認）」



親子での徒歩下校



危険箇所を確認しながらの下校

- 防災教室で学んだことや確認したことをもとに、通学路を親子で徒歩下校しながら、万が一の場合にどこへどのように避難すればよいか確認し合う。
- ・下校途中2カ所程度で立ち止まり、安全避難訓練を実施する。（担当教員）
- ・休日等の在宅時の避難の方法については、帰宅後各家庭で確認し合う。

2 「学区ジオラマ地図」の作成

- ・学区ジオラマ地図（立体地図）を作成することで、常に震災被災を忘れずに、危機意識をもって学校生活を送れるように計画をした。
- ・各自の居住場所を表示し、自宅周辺の危険箇所及び海拔30m以上の安全箇所を、見て確かめられる地図になった。



完成したジオラマ

3 成果

「親子防災教室」実施後、保護者の感想を求めたところ、以下のような感想が多く寄せられた。大きな成果と受け止めながらも、今後とも「防災・減災」に向けた取組を継続していきたい。

- ・子供と親と一緒に下校したり、子供と一緒に防災について考えながら体験できたり、とてもよい研修会でした。これからも、このような機会を設けていただきながら、防災意識を高め維持していきたいものです。
- ・避難の目安となる「海拔30mの安全基準」は、具体的で役立つと思う。子供と一緒に歩き、具体的な避難場所を親子で確認できてとてもよかった。
- ・家に帰って、親子で震災後の写真を見ました。鳥肌が立ちました。忘れてはけないことだと確認し合いました。震災被災のダメージが大きかった分、今日の「防災教室」の意義と内容は、とても有効だったと思います。
- ・1年に1回ではあるが、防災について学校と親・子供と話し合うことや、その都度計画を見直していくことは、とても大切なことだと思います。
- ・登下校途中に子供たちが自分たちで判断し、行動できるように指導していただいていること、親子で通学路を一緒に歩いて確認できたことは、とても有意義であったと思います。